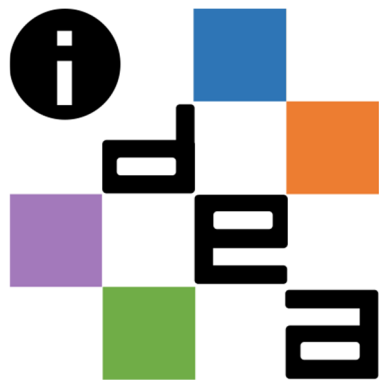


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2018

7月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|-------------------|
| 2 | 二言三言 | 移動販売に見る時代変化とこれから |
| 4 | 団体紹介 | げいび大獅子太鼓の会 (東山) |
| 5 | 地域紹介 | 千厩町小梨 第九区自治会 (千厩) |
| 6 | 企業紹介 | 合同会社 弥生グループ (一関) |
| 7 | センターの〇〇 | センターの自由研究 鳩レースの世界 |

移動販売に見る時代変化とこれから

対談者 みうらぎよてん 三浦魚店 店主 かつとし 三浦勝利さん
 聞き手 いちのせき市民活動センター 室根地域担当 佐々木牧恵

民家に続く細い砂利道を演歌を響かせながら登っていく1台のトラック。「三浦魚店」として知られるこのトラックは、室根を中心に45年前から「魚介類販売業」として移動販売を行っている三浦勝利さん(75歳)の5台目の愛車です。今回は現代では貴重な存在となった移動販売のお仕事に同行させていただきました。

信頼関係を築きながらの45年

■民家の玄関前に停車した三浦さんのトラック。お客さんも三浦さんも特別な挨拶をするわけでもなく、さも当たり前のように商品たちの前へ。商品には値札がついていませんが、お客さんは欲しいものをポンポンと慣れた手つきで取っていきます。

【佐々木】買う物が決まっているんですか？

【お客さん】だいたいどこの家も買う物は決まってるわよね。それに合わせて持ってきてくれるし。

【三浦】お客さんたちの買う物はだいたい把握してるから、その日行く地区に合わせて仕入れるのさ。

【お客さん】もう40年以上のお付き合いだもの。

【佐々木】移動販売はどんな存在ですか？

【お客さん】年寄りには助かってるわよ。足がない人も多いし。毎週楽しみにしてるの。



停車後すぐに商品選び。決まった商品はカウンターへ。お客さんもリラックスした様子で自然な関係が伺えます。

■三浦さんが移動販売を始めたのは30歳を過ぎた頃。関東での出稼ぎからUターンし、行商をしていた父の存在も影響してか移動販売を思いつきました。まだ車

が普及し始めたばかりの頃に冷蔵機能がついたトラックはかなり高価なものでしたが、返済をしながらも子ども5人を育てられるほど、当時は売れ行きが良かったと言います。



三浦魚店 三浦勝利さん

【佐々木】1日に何軒くらい訪問するんですか？

【三浦】昔は1日に30軒くらい行ったもんだけど、今は10数軒。なんせ当時は200軒以上のお客さんがいたからね。今は半分くらいになってしまった。

【佐々木】200軒！当初はどうやってお客さんを開拓していったんですか？

【三浦】始めた頃は1軒1軒挨拶して回ったよ。昔はどこも行けば少しずつでも買ってくれたもんだ。だから家に帰るのは19時とか20時だった。

【佐々木】その当時からのお客さんもいるんですか？

【三浦】そうだね、長い人は45年。お嫁さんたちが代々引き継いで3代目になってる家もある。

【佐々木】当初からのお客さんはだいぶ高齢になってますよね？

【三浦】そう。だからデイサービスに行くようになった人のところなんかはその日時も把握して、家にいる日に訪問曜日を変えたりしてね。

【佐々木】なるほど。お客さんは嬉しいですよ。

【三浦】年金生活の人だと2か月に1回しか支給されないから、ツケ払いにして待ってあげるのさ。足のない人の中にはほぼ全ての買い物のうちで賄ってくれている人もいて、普段持ち歩く商品の他に味噌や醤油、日用品なんかも頼まれれば持っていくんだ。



①細い道もなんのその。②トラックの左側を開けると商品がズラリ。③三浦さんが気仙沼から仕入れてパック詰めした海産物たち。④お客さんは50代~80代まで幅広い。

■三浦魚店は月~土曜日の営業ですが、月曜日は気仙沼に仕入れに行き、自宅の加工場で仕入れた魚をさばいてパック詰め、翌日からの移動販売に備えます。火曜日は佐沼に仕入れに行きからの移動販売。実際に商品を持って動くのは週に4~5日です。現在は室根の上折壁・津谷川の他、藤沢の保呂羽にも向かいます。

【三浦】昔だったら田植え時期は本当によく売れた。今は田植えも機械化で人が集まることもないから関係なくなってしまったね。当時は1軒1軒回らなくてもそういうたまり場に行けばみんな買いに来たんだ。

【佐々木】今はどういう時期が忙しいですか？

【三浦】年末年始は今でも特別なものが売れたり、1年に1回、その時だけは買ってくれる人もいるね。

【佐々木】トラックには常時何種類くらいの商品を？

【三浦】魚だけでも20種くらい、練り物とかの加工品が20種、最近はお菓子とかも積んでるから50~60種はあるかな。

【佐々木】今日は気仙沼の豆腐を買われていたお客さんが多かったようですが、人気の商品は何でしょう？

【三浦】うちは昔から鰻のかば焼きが定番だね。あとはやっぱりカツオ、ピンチョウマグロかな。

【佐々木】1人当たりの購入単価が予想外に高くてびっくりしたんですが、いつもそうなんですか？

【三浦】1人最低でも2千円は買うね。1万~2万円くらいの人もあるし。今のお客さんは値段気にしないで、良いものは良いと買ってくれるし、移動販売だからって高いわけではなく、スーパーより安いものもあるよ。

互いに「ありがたい」存在

【佐々木】今日は4軒のお宅訪問に同行させていただきましたが、みなさん「助かっている」「丈夫なうちは来てもらわなきゃ困る」とおっしゃってましたね。

【三浦】こうやって75歳になってもお客さんと会話できることはありがたいよ。お客様は神様だって言うのは本当で、行った先で野菜をもらうこともあるんだ。買ってただけでありがたいのにお土産くれるなんてさあ。

【佐々木】運転が必要なので無理強いはいできませんが、今日見ている、できれば続けて欲しい、もしくは誰か後継者が現れないものかと切実に思っていました。長寿化していく中で、また需要が増えそうなお仕事ですよ。

【三浦】(事前注文制の宅配サービスと異なり)目の前の商品から直接その場で買う物を決めることができるのはお年寄りには嬉しいと思うよ。でも子どもたちにも止められ始めたし、続けられてもあと5年かなあ。

【佐々木】誰か後継者が現れて欲しい！移動販売で食べていくのは難しいですか？

【三浦】お客さんが減ってるからね。昔は移動販売から帰ってくると、自宅近所の方が家に来いに来てくれたりもしたけど、今は近所の人もいなくなってしまったから。それに演歌をかけて車を走らせていると、音に気付いて買いに来てくれる人もいたけど、今は夜勤の人も増えて、屋間にかかる演歌に苦情がくることもあるよ。

【佐々木】そうでしたか。寂しさを感じてしまいます。ちなみに今でも道路を走っている所に遭遇して手をあげたりすれば、お買い物させてもらえるんですか？

【三浦】もちろん。それに新しく「家にも来てほしい」という連絡をもらえば喜んで行きますよ。

■近年は直接お店に行かずとも買い物ができる仕組みが充実してきましたが、コミュニケーションを楽しみながらの買い物は商いの原点であり、三浦さんのような移動販売のスタイルは原点回帰的な仕事のあり方として、便利な時代だからこそ必要だと感じた時間でした。



三浦魚店(みうらぎよてん)

電話:080-1835-1428 / 0191-65-2158

住所:〒029-1211 一関市室根町津谷川字中磯 163

団体 紹介



会長の菅野保宏さん

～基本情報～

- ◆会 長：菅野保宏^{かんのやすひろ}さん
- ◆住 所：〒029-0302
一関市東山町長坂字久保 208-8
- ◆電 話：0191-47-3141
- ◆活動日：毎週土曜日 18：30～20：00
- ◆場 所：旧松川公民館ホール
(松川郵便局隣)

和太鼓は人の和をもって音とする

獅子が舞う和太鼓の誕生

平成2年、東山町に新しい郷土芸能として創作太鼓「げいび大獅子太鼓」が誕生しました。演奏の途中で一対（雄雌）の大きな獅子が登場するのが特徴で、こうした形式は東北の中でも珍しいのだとか。奈良県を拠点として和太鼓で世界的に活躍する傍ら、全国各地で和太鼓グループを育成する活動も行う飛鳥大五郎氏が作曲と太鼓指導を手がけたこの「げいび大獅子太鼓」の誕生と同時に、会員の和をもってその太鼓を維持継承し発展させていこうと結成されたのが「げいび大獅子太鼓の会（以下「同会）」です。今回は同会の三代目会長である菅野保宏さんにお話を伺いました。

光と影

同会が設立された平成2年頃は和太鼓のブームがあり、岩手も含め全国的に和太鼓のグループが誕生したそうです。「初代会長からの誘いで平成8年頃から入会した」という菅野さんですが、「数ある出演の中でも大相撲東関部屋が東山に巡業に来ていたご縁で平成13年に第64代横綱の曙（あけぼの）関の引退セレモニーに招待され、東京高輪のホテルで演奏したのが一番印象的」と振り返ります。かつては週2回の練習で腕を磨いたという同会は、平成9年にハワイで開催されたホノルルフェスティバルなど、地元東山だけでなく各地の大小様々なイベントや結婚式などにも出演し、日本太鼓ジュニアコンクールで平成23・24年に東北大会に出場するなどジュニアの部（高校生以下）の活躍もあり、輝かしい歴史を刻んできたと言えます。

しかし菅野さんは同会の現状について、「悩みも多い」と危機意識を隠しません。「全国的な人口減少もあり太鼓人口も減少しており、太鼓団体の中にも継続できなくなって解散している所もある」と語る菅野さんは、「当会でも会員数が少ないことは課題だし、それとは

別に大人の練習参加率の低さも悩み。それぞれ事情もあるだろうが、意識の持ち方次第な所もあると思う。若い会員もおり、太鼓の活動を通じて人間的な幅も広がると思うので、意識を前向きにしつつ行動に繋げてもらえれば。私自身も気持ちや言葉だけでなく行動を伴わせていきたい」と、会員と自分自身へのある種の歯がゆさに対し、期待と決意の言葉を口にします。

人との繋がりと希望の光

平成25年の水害で、浸水により同会の太鼓がほとんど駄目になってしまった時に、宝くじの助成金に助けられた経験もある菅野さんは、「会員やイベントを通じて関わった方だけでなく、様々な人の支援を受けている。今でも口伝えで出演依頼の声をかけていただくのもありがたく、できるだけ断らないようにしている」と、『人との繋がりを大事に』という思いを語ります。

また、現状大人の参加が少なく順風満帆とは言えない練習の中にも明るい兆しが、「イチ・ニ・サン・シ～」と準備運動で始まり、ひとたびバチを持たればその目は小学生とは言え真剣そのもので、激しく太鼓を叩き続けます。太鼓の楽しさを尋ねるとある小学生は「みんなと協力して良い演奏が出来た時」と答えてくれましたが、これは『和太鼓は人の和をもって音とする。自己鍛錬し全員の和がとれたとき、それは完成する』という同会のモットーと期せずして合致しており、理念が継承されている証に思えます。さらにジュニア経験者が大人会員として参加し、自身の技術向上とジュニアの指導に関わる好循環も。響く「ヤーッ！」の掛け声と太鼓の音が、同会に灯る希望の光のように感じられました。



いわて太鼓フェスティバルにて。
※参加者大歓迎です！
一緒に太鼓を叩いてみませんか？

地域紹介



「畑の一年生」の皆さん
(中央が自治会長の佐藤弘子さん)

～基本情報～

- ◆自治会長：佐藤弘子さん（1期2年目）
- ◆千厩町小梨地区の中央に位置し、78世帯が暮らす中山間地域。「九区は小梨の文化の発祥地」を合言葉に、過去には会員のアイデアと創意工夫による創作劇や創作太鼓を披露したり、地区民祭でも毎回活躍しています。

まずは挑戦 ～楽しむ笑顔が人を引き寄せる～

やりたいことはみんなで持ち寄り、手作りで

昭和63年に設立した第九区自治会（以下「9区」）。設立当初から事務局として自治会活動を支え、女性部などを経て、昨年度から自治会長になった佐藤弘子さんにこれまでの自治会活動と昨年度から始めた新しい試み、人が集う工夫についてお話を伺いました。

会員の家の前に手作りの序の口看板や道しるべを設置したり、協力し合い景観づくりに取り組むなど会員相互の親睦を深めることに力を入れてきた9区。中でも平成10年から始めた「水仙ロード」は9区を代表する活動となっています。当時の会長が「どこの家にもある水仙の花を活用して景観づくりをしよう」と提案し、「水仙ロード植栽事業」がスタート。自治会内の家庭だけでなく、ほかの地区からも協力をもらい水仙の球根を集めて区内の道路に植え、現在では約10kmの道路の両脇に植えられた水仙が毎年9区の春を彩ります。

平成15年から始めた「水仙ロードウォーキング」は毎年の恒例行事となり、子供会や老人クラブ、農事組合と一緒にウォーキングを行い、お昼のバーベキューを楽しんでいます。さらに佐藤さんの班では、ウォーキングコースの一面が雑草だらけになっていることから、班内の家庭からツツジを持ち寄り、桜の苗木を植栽し、屋根ふき職人の協力も得て東屋のある公園に整備したそうで、9区では地域でやりたい、必要だと思ったものはみんなで話し合い、持ち寄り、区外の人からも協力をもらいながら進めてきました。

畑づくりで広がる交流の輪

昨年度から新たな試みとして、退職した農業未経験の女性陣による「畑の一年生」に取り組んでいます。自治会内には、農家のお嫁に来て家に畑はあるけど農業の経験はないという女性も多く、佐藤さんもその一人でした。以前から行事の席などで「畑をやってみた

い」というメンバーの話から、自治会長になったことを機に自宅の使っていなかった畑を活用して仲間を募り「畑の一年生」と銘打って畑づくりをスタート。

土の作り方などもわからなかったので、1年目は外部から講師を招いて座学から始め、作りたい野菜を話し合い、肥料や苗は購入したり、自治会内の農家から分けてもらいました。顔見知りのメンバーで始めましたが、一緒に活動していく中で「この人にはこんな一面があったのか」など、お互いをより深く知る機会にもなっているようで、畑仕事に参加するだけでなく「うちにも苗があるから使わないか」と連絡をもらったり、野菜を育てていない家庭におすそ分けして喜ばれたり、交流が広がっています。今では清田の花の駅軽トラ市にも出店をはじめました。

小さな工夫と雰囲気づくりで参加促進

活気があり、まとまりのよい9区でも、ほかの自治会と同様に活動への参加促進を課題として捉えています。前会長から始めた工夫（『草刈りと炊き出し訓練』『ソフトボール大会の間に減塩料理の講習会をして昼食に提供する』といった行事の組み合わせなど）を行い、参加を呼び掛けています。また、昨年は市の空き家バンクを通じての移住者もおり、「田舎を好きで来てくれる人が増えるように、地域でもウェルカムなモードをつくっておければいいのかなと思う。地域には活動に参加できる人とできない人がいる。楽しそうに活動しているのを見て感じるものがあれば来てくれるし、子どもを対象にすると親子で一緒に楽しんで参加してくれます」と佐藤さんは笑顔でお話ししてくれました。



今年の水仙ロードウォーキング
家族ぐるみの参加も多いそうです。

企業紹介



(左) 代表 佐々木征子さん
(右) 副代表 佐々木由美子さん

～基本情報～

- ◆代 表：佐々木征子さん
- ◆住 所：〒029-0211
一関市弥栄字茄子沢 236-15
- ◆電話/FAX：0191-43-2080

地場産原料を使い、ふるさとの味を継承する

私たちが私たちの居場所をつくる

一関市弥栄地区の女性で構成する合同会社弥生グループは、味噌加工を中心に、「がんづき」や「おふかし」「だんご」などを製造販売する企業で、平成14年の旧JAいわて南弥栄支店の統合をきっかけに発足。更地にする予定だったJA同支店の建物を加工場として利用しています。「地域の交流の場がまるきりなくなってしまうのは淋しい。だから、自分たちの手で何とか建物を残し地域の発展に利用できないか考えた」と、当時を振り返るのは二代目代表の佐々木征子さんです。

地理的に一関市内と旧東磐井郡のちょうど中心部に位置する弥栄地区は、双方から嫁入りする人が多く郷土の味もさまざま。そんな女性陣が交流を深めたのはJA女性部の集まりで、その活動の中から、平成13年に有志12名で、地元大豆を使用し弥栄の味を生み出す“みそ加工研究所”を立ち上げました。

当時、一関市全体のJA女性部長であり、のちの弥生グループ初代代表になった佐々木マツコさんを中心に、「建物を取り壊すなら、私たちに味噌の加工場として貸してもらえないだろうか？」とJA組合長に直談判し、女性陣も団結。慣れない資金集めや、加工製造計画の作成、年間の販売計画等々それぞれが役割を持ちながら着々と準備を進めました。

その後、県や市からの補助金と足りない分を会員12名で出資し合い、取り壊す予定だった建物を加工場として借り受け、みそ製造を始めました。

事業が軌道に乗ってきた平成19年に「みそ加工研究所」から「合同会社弥生グループ」と、更なる発展を期して新たな一步を踏み出したのです。

地域名と地場産に思いを込めて

グループ名の「弥生」は、「弥栄に生まれ、弥栄に生

きる」という意味だと教えてくれた征子さん、「ここは仕事場であり、交流の場でもある私たちの大切な居場所」と語り、「昔ながらのおふくろの味をお客様に喜んでもらえるように一つ一つ心を込めて製造しています」と続けます。

同社が製造している製品の一押しは、岩手県南地方などでよく作られる「がんづき」。砂糖や卵などを加えて練った小麦粉の生地を蒸して作る郷土菓子で、味噌味・塩味・クルミ入りの3種類を販売しています。まるでシフォンケーキのようなふわっとした作りで、素材の味を活かすもっちりとした食感。商品化するにあたり、材料のほとんどを地場産にこだわり、試行錯誤を重ねた結果、今までにないふんわり感を出すのに成功したのだと言います。この、がんづきは当時北上川に完成した大橋にちなみ「大橋がんづき」と名付け、川崎町の道の駅で販売をしていましたが、市外からも注文が入るようになり、今や県内のデパートやスーパーなどのほか、年数回東京・巣鴨で開催される「一関の物産と観光展」でも販売されています。

さまざまな出会いが奇跡を生む

同社発足のきっかけとなったメイン商品「弥生みそ」は、大豆の味をしっかりと残し塩分控えめでうまみがあるのが特徴で、学校給食センターにも納品しており、地元小学校の企業見学の受け入れにも協力しています。

最後に「メンバーと協力し、新しいものを探りながら『自分たちで作った会社だ』という誇りを持ち挑戦もしながら継承し続けたい」と語っていただきました。



大橋がんづきのほか、だんご・おふかし、黒豆ご飯、しそ巻、梅干しなどの加工製造も手掛けます。

センターの ○○!



小窓や部屋がたくさんある鳩小屋。
中がいったいどうなっているのか
気になりませんか？

当市内でも各地で見かける鳩小屋。
小屋は目にして飛んでいる鳩を見る
ことはあまりなかったり、そもそもの
競技内容や競技人口、どんな人が競技
しているかなど、実は知らないことが
多い鳩の世界。想像以上に深い世界が
そこにありました！

極めればキリがない!? 鳩レースとは

鳩の帰巢本能を活かし、同一地点（放鳩地）から同時に放鳩し、誰の鳩が早く帰ってくるかを競う競技です。

血統が勝負を左右する「レース鳩」たちは神社やお寺等でよく見かける「土鳩」とは帰巢能力・飛翔能力ともに大きく異なります。競技にあたっては、放鳩地から各自の鳩を飼育している鳩舎までの距離を正確に測定し、鳩が帰るのに要した時間で割って、1分間のスピード(分速)を出して比較します。優秀なレーサー(=レース鳩)は四国(四万十市)から一関まで1日で戻って来てしまうというので驚きですが、実は帰巢できるのはごく一部のレーサーのみで、長距離レースともなれば大半が途中で脱落してしまったり、タカなどの餌となってしまうのだとか。

レースは主に秋と春。秋に地区レベルの短距離レースでデビューすると、徐々に距離が伸びていき、春の長距離レースの頃には自然と少数精鋭に淘汰された状態になり、残った優秀なレーサーたちが日本鳩レース協会主催の広域レースに参加することができます。愛鳩家(=飼主)は自分の交配させたレーサー達が帰巢する喜びと、名誉をかけて挑戦を続けるのです。

一関の愛鳩家と時代背景

鳩レースに参加するには、「競翔連合会」の会員にならなければなりません。現在、市内には「一関連合会(西エリア)」「新南三陸(東エリア)」の2つの連合会があり、会員数は合わせて約60人。

戦後の暮らしが落ち着き始めた昭和25年頃から鳩を飼育する人たちが現れ、昭和35年頃には小学生の男子にとっては「鳩を飼うことが常識」であったとか。この頃すでに市内にもレース鳩の連合会があり、大人たちに交じってレースを楽しむ子どもたちもいたそうです。鳩レースは子どもと大人の接点・交流の場にもなっていたのです。

昭和53年、週刊少年チャンピオンでレース鳩の漫画(「レース鳩0777」)が連載されるなど、全国的に鳩レースはブームに。そして昭和58年、現在の一関連合会が発足(復活)します。

現在の会員は鳩レースを続けたいがために地元就職した人が大半で、逆に就職によって一度は鳩レースを辞めたものの、未練が残り、退職と共に鳩レースのために帰郷したという人も多いとのこと。娯楽が増えた昨今、新規会員はほぼなく、25名以上の会員が必要な連合会を維持していくことが目下の悩みです。



鳩小屋の内部
お見せします!



鳩が帰って来るところ



まだ産毛の残るヒナ鳩



鳩レースの始め方
教えます!

小屋と1組の種鳩があれば始められる鳩レース。
興味のある方は「一関連合会」事務局まで!

☎ 090-7666-1667 (泉さん)

おしらせ

講座

まちづくりコーディネーター 養成講座

主催：いちのせき市民活動センター

地域づくり活動の基本的な考え方や進め方、知識、手法などを学ぶ全6回の講座を行います。
第1回「まちづくり概論」7月11日(水)
第2回「意見の引き出し方①」8月8日(水)
第3回「意見の引き出し方②」8月22日(水)
第4回「人の集め方①」9月12日(水)
第5回「人の集め方②」9月26日(水)
第6回「人の動かし方」10月10日(水)

【時間】9時20分～12時(全6回共通)
【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室
【受講料】2,000円(全6回分)
【問合せ & 申込】0191-26-6400

サロン

いこいカフェ

主催：NPO法人ケアセンターいこい

認知症を広く正しく知っていただくために、また、認知症の方や介護をしている方が悩みや不安と一緒に考えたりする場として「いこいカフェ」を開催しています。何でも話せる息抜きの場として、情報交換の場として、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

【日時】毎月第2水曜日の10時～12時
※7月は11日(水)開催(出入り自由です)
【場所】ケアセンターいこい(一関市地主町2-26)
【参加料】200円(お茶・お菓子代)
【問合せ】0191-31-1514

イベント

金曜夜のミニシアター

主催：室根と愉快な仲間たち(通称：室愉会)

旧津谷川小学校の校舎壁面を使用した野外シアターを開催します。上映映画はユニバーサル・スタジオのアニメ映画「SING」で、室愉会オリジナルのポップコーンも配られます。みんなでワイワイガヤガヤ楽しいシアターにしましょう！
※各自、虫よけ・虫刺され対策をお願いします。

【日時】平成30年7月13日(金)18時30分 開場 19時～20時45分 上映
【場所】旧津谷川小学校 校庭
【料金】入場無料(申し込み不要)
【問合せ】0191-64-2347(室根まちづくり協議会)

講演

一関市国保藤沢病院 開院25周年を祝う会

主催：一関市国保藤沢病院
開院25周年を祝う会実行委員会

藤沢病院の開院25周年を記念し、式典と講演を行います。講演では「ないものはない～離島からの挑戦～」を演題に、地域創生最先端の町である、島根県海士町のまち・ひと・しごと創生戦略プロジェクト事務局長の濱中香理さんが講師を務めます。地域医療を共に支えていく地域づくりについて皆さんで考えていきましょう。

【日時】平成30年7月15日(日)13時 開場
【場所】藤沢文化センター縄文ホール
【参加料】無料
【問合せ】0191-63-5515(藤沢町住民自治協議会)

募集

「イチコレ」参加者募集

いちのせき市民活動センター

8月19日(日)になのはなプラザ(一関市大町4-29)で開催する「いちのせき市民フェス 18」内の「イチコレ(いちのせき市民モデルコレクション)」でランウェイを歩いてみませんか？一関市民を中心に、老若男女、個人でも団体でもご参加いただけます。参加料は無料です。詳細と参加申し込みは下記ホームページまで。一緒にイベントを創っていく仲間も募集しています。

【申込締切】平成30年7月22日(日)
【HP】「イチコレ」で検索
【問合せ】0191-26-6400

イベント

2018どろんこパレー in 羽根折沢

主催：大東町摺沢「羽根折沢自治会」

自治会青年部が中心となり、この地方ではほとんど開かれていない、どろんこの田んぼでのパレー大会を開催します。どろんこになれる男女(年齢不問)で、遊び心と健康に自信のある方6名を1チームとし、全16チームを募集。
7月13日(金)までにお申し込みください。

【日時】平成30年8月5日(日)12時 開会式
【場所】大東町摺沢字下羽根折沢地内 特設会場
【参加料】1チーム6,000円
(大会後の「表彰式兼懇親会」参加料含み)
【問合せ】090-7520-6292(佐藤)

「貸借対照表の公告方法」を 定款に定めていないNPO法人の皆さまへ

今までは資産の総額の登記を毎年変更することが義務付けられていましたが、平成28年の特定非営利活動促進法の一部改正に伴い、その変更登記が不要になる代わりに、**毎年貸借対照表の公告を行うこと**が義務づけられるようになります(平成30年10月1日施行)。

◆ポイント◆

「**貸借対照表の公告の仕方**」を、遅くとも**平成30年10月1日までに定款に定める必要があります。**

→総会で定款の変更を議決した上で、所轄庁等に「定款変更届出書」を提出しましょう。

<記載例>

第△条

この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第△条に規定する貸借対照表の公告については、〇〇に掲載して行う。

下線部は下記①～⑤の方法の中から選ぶことができます。

- ① 官報に掲載
- ② 日刊新聞紙に掲載
- ③ 電子公告(法人のHPなど)
- ④ 内閣府NPOポータルサイトの法人入力情報欄に掲載
- ⑤ 主たる事業所の掲示場への掲示

※③の場合は、約5年間継続して広告する必要があります。

今月の表紙



藤沢町黄海地区の町場から相川ダムへ向かう途中にある公園です。佐藤継一さんが自宅近くの休耕田を使って、5年前に町内外から石や花などを集めて整備しました。4月から10月初め頃までは池に相川ダムの水が流れ、鯉が泳いでいます。

Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q NPO法人が総会で決議しなければならない「3つの事項」って何ですか？

A 総会は法人の最高意思決定機関であり、定款で理事その他の役員に委任したものを除く全ての事項について決定する権限を有します。その事項の中でも「定款の変更」「法人の解散」「法人の合併」に関しては、特定非営利活動促進法の定めにより、必ず総会で決議しなければならないことになっています。

